



先週の金曜日に、6年生がプール清掃を行いました。13日(水)にはプール開き集会を行い、14日(木)からプールの指導が始まります。梅雨に入り天候によっては、実施できない日もありますが、家庭での準備をよろしくお願いします。

引き渡し訓練 5月11日(金)

今年度は、市内で不審者による事件が発生したという想定で行いました。子どもたちは、体育館に避難をし、保護者のみなさんに迎えに来ていただきました。昨年との違いは、自動車でのお迎えも可としたことです。徒歩、自転車、自動車による迎えがある中、交通事故や交通渋滞が起こらないように、十分検討をして行ったところ、無事に終了することができました。

保護者のみなさん、交通安全指導員のみなさん、筑縄駐在所長さんには、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。



自動車での引き渡しの様子

「高崎市交通少年団」結団式 5月23日(水)

高崎警察署、高崎交通安全協会、地域交通課、健康教育課、交通安全指導員、見守り隊のみなさんをお招きして、交通少年団の結団式を行いました。本校の6年生12名が団員となって、交通安全意識の向上と交通安全活動の推進を行います。



団員証とタスキの授与の様子

警察署の方のお話では、昨年度、自転車に乗って自動車にはねられ、ケガをした小学生が、高崎市で2名いたとのこと。幸いなことにヘルメットをかぶっていたので、命は助かったそうです。全員の児童が、自転車に乗るときには、必ずヘルメットをかぶることを約束しました。

情報モラル講習会 5年生&PTA セミナー 5月29日(火)

高崎警察署の方をお招きして、情報モラル講習会「インターネットを安全に使うために」を行いました。

インターネットは便利で楽しいものですが、使い方を間違えると、とても危険なものになってしまいます。インターネットで知り合った人は、ほんとうのことを言っているとは限りません。

ゲーム機を使ってインターネットゲームで知り合った人の所に遊びに行き、帰ってこなかった人もいたそうです。「僕が知り合った人は、絶対悪い人ではない」と思い込んでしまうことがないように、よく考え、家族と相談して、インターネットは正しく使いましょう。



情報モラル講習会の様子

施設設備の点検・改修

学校では、子どもたちが安全に学習できるように、毎月初めに施設設備の点検を行っています。そして、必要な改修を行っています。具体的には、教室や廊下の床板の改修、遊具(吊り輪)の改修、防犯用の照明器具の増設などを行いました。

保護者の方で、お気づきの点がありましたら、学校までお気軽にご連絡ください。

体罰や暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼします

最近、子どもにかかわるたくさんの事件が報道されていますが、今回は子どもの脳について考えてみたいと思います。昨年、児童虐待防止に向けて厚生労働省が作成した初めての啓発資料についての記事がありましたので、紹介します。

厚労省が「愛の鞭ゼロ作戦」

子育てをしていると、ついイライラして子どもを叩いたり、怒鳴ったりしてしまふことがあります。しかし、子どもに対する暴力や暴言は、「体罰」です。日本の社会には、しつけのためには体罰という「愛の鞭」も必要という考え方が根強く残っていますが、これに対して厚生労働省は、体罰の悪影響などを説いたパンフレットを作成して、「愛の鞭（むち）ゼロ作戦」というキャンペーンを展開しています。なぜ、体罰はいけなののでしょうか。



体罰で子どもの脳が委縮や変形

厚労省の「子どもを健やかに育むために」と題したパンフは、脳科学など最新の研究データから、体罰の有害性を説いているのがポイントです。最近の脳科学研究で、子ども時代に暴力や暴言を受けた人の脳は、前頭前野が委縮したり、聴覚野が変形したりすることが明らかになっています。しつけのつもり「愛の鞭」が、実は子どもの脳に「目に見えない大きなダメージを与えているかも知れないのです」と説明しています。また、体罰を受けた子どもは、成人後に精神的問題や反社会的行動を起こしやすいなど「望ましくない影響」も大きいと指摘しています。

体罰など「愛の鞭」は、子どもが言うことを聞くようになるなど、一時的には大変効果があるように見えます。しかし、それは暴力や暴言による恐怖で子どもをコントロールしているだけです。このような子どもは、親に気に入られようとして「親の顔色を見て行動」するようになるだけでなく、親に心配事や悩みを打ち明けられなくなります。その結果、最悪の場合、「いじめや非行など、より大きな問題に発展してしまう」ことになりかねないとパンフは述べています。すぐに効果が出るからと「愛の鞭」を子どもに振るっている保護者は、いずれ大きなしっぺ返しを食うことになりかねないようです。

「愛の鞭」は捨ててしまおう

とはいっても、子育て中の保護者のストレスは、やはり大変なものです。何かを取り合っけんかしている、言ってもすぐに動かないなど、ささいなことでイライラが爆発して、手や口が出てしまうこともあるでしょう。パンフは、そんな時のために、感情を「クールダウン」させる方法を保護者が身に付けておくようアドバイスしています。

人に迷惑をかけるような子になっては困る、わがままな子になっては困るなどの思いから、つつい強く怒鳴ってしまうこともあります。保護者自身が感情的になってしまっけは、しつけとしての効果はありません。しつけとしての「愛の鞭」のつもりが、いつの間にか「虐待」にエスカレートしてしまうこともあります。パンフは「『愛の鞭』は捨ててしまひましよう」と呼び掛けています。

しつけのための「愛の鞭」のつもりが、知らず知らずのうちに恐怖で子どもを縛ることになっていないでしょうか。子どもの心身に大きなダメージを与えていないでしょうか。子どものためと振るった「愛の鞭」が、逆に子どもを傷つけることになっていないでしょうか。体罰は、しつけではありません。子育てで、イライラが高じた時には、いったん落ちついて冷静になることが大切でしょう。

(筆者：斎藤剛史)

「ベネッセ教育情報サイト：教育ニュース 2017年6月20日」